

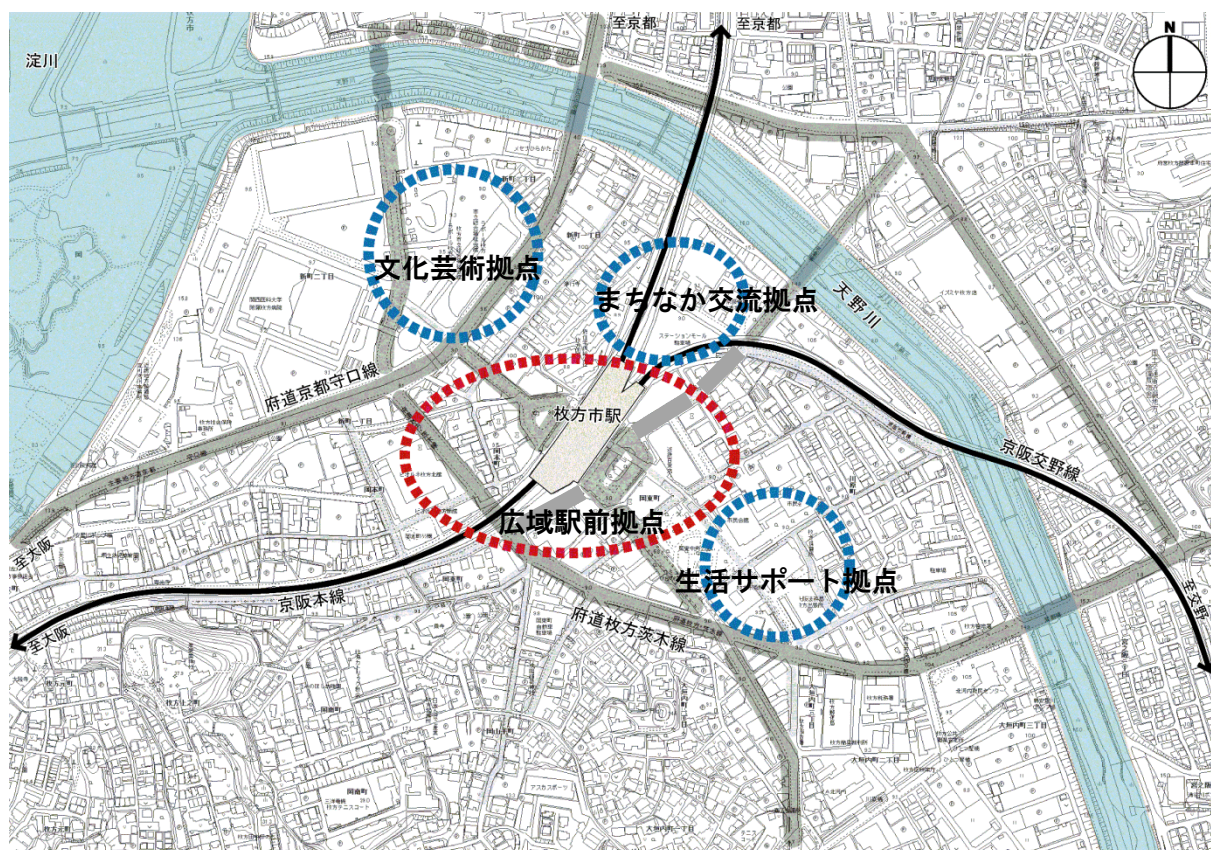
第5章：まちづくりの取り組み

ここでは、まちづくりの方向性をもとにまちの将来像を実現させるための取り組みについて示します。

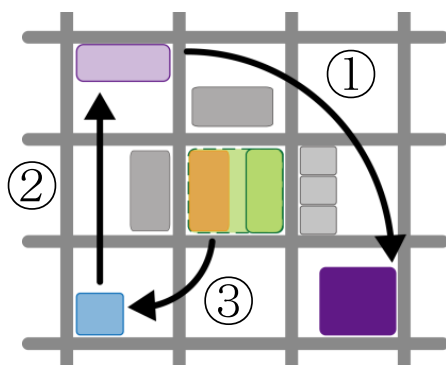
(1) 拠点形成と連鎖型によるまちづくり

枚方市駅周辺地域は、駅前広場を中心に商業、業務、居住、行政施設が比較的狭い範囲で集積された、機能重視の既存の拠点が形成されています。ビジョンでは、既存の拠点『広域駅前拠点』をより一層強化するとともに、新たに3つの拠点『文化芸術拠点』『まちなか交流拠点』『生活サポート拠点』を形成することにより、まち全体にゆとりをもたせ、回遊性を向上させることで、賑わいにつなげます。

まちづくりの具体的な手法としては、新町2丁目地区の総合文化施設の整備を契機に、老朽化施設の建替えや移転を連鎖的に行うことでまち全体の活動を止めることなく、これからの時代に対応したまちの形成をめざします。



連鎖型まちづくりのイメージ



- ・①、②、③のように、順々に建替えや移転を連鎖的に行っていく。
- ・連鎖的に建物の更新を行っていくことで、まち全体の更新、土地利用の転換を図っていく。
- ・通常の移転で生じる仮移転先の選定や既存土地・建物の処理の負担が減る。

1) 広域駅前拠点の強化

これまで、北河内地区の広域的な交流拠点として形成されてきたエリアについて、駅前広場をはじめとする都市施設の改善や情報システムの充実を図るとともに、老朽化した既存建物の再開発も含めた民間活力によるリニューアル等、商業をはじめとする様々な都市機能の更新とまちの活性化を促進します。

2) 文化芸術拠点の形成

新町2丁目地区における既存の都市機能や民間活力の導入を視野に入れた新しい都市機能と連携することなどにより、総合文化施設を中心とした文化芸術の拠点を形成することで広域的な交流拠点としての充実を図り、枚方市駅周辺地域全体の魅力の向上や活性化を促進します。

3) まちなか交流拠点の形成

多様な人々が交流し、市民生活に必要な都市機能を備えた拠点として、民間活力による居住、商業、業務機能の複合的な土地利用を促進することにより、低未利用地等の有効活用を図ります。

また、大阪府住宅供給公社枚方団地エリアの再生については、交通環境の改善や、高齢者の都市居住も含めた地域内人口増加への働きかけを行います。

あわせて、隣接する天野川の自然環境を活かし、川と一体となった広場等、歩行者の回遊性を高める空間整備に向け関係機関等へ働きかけます。

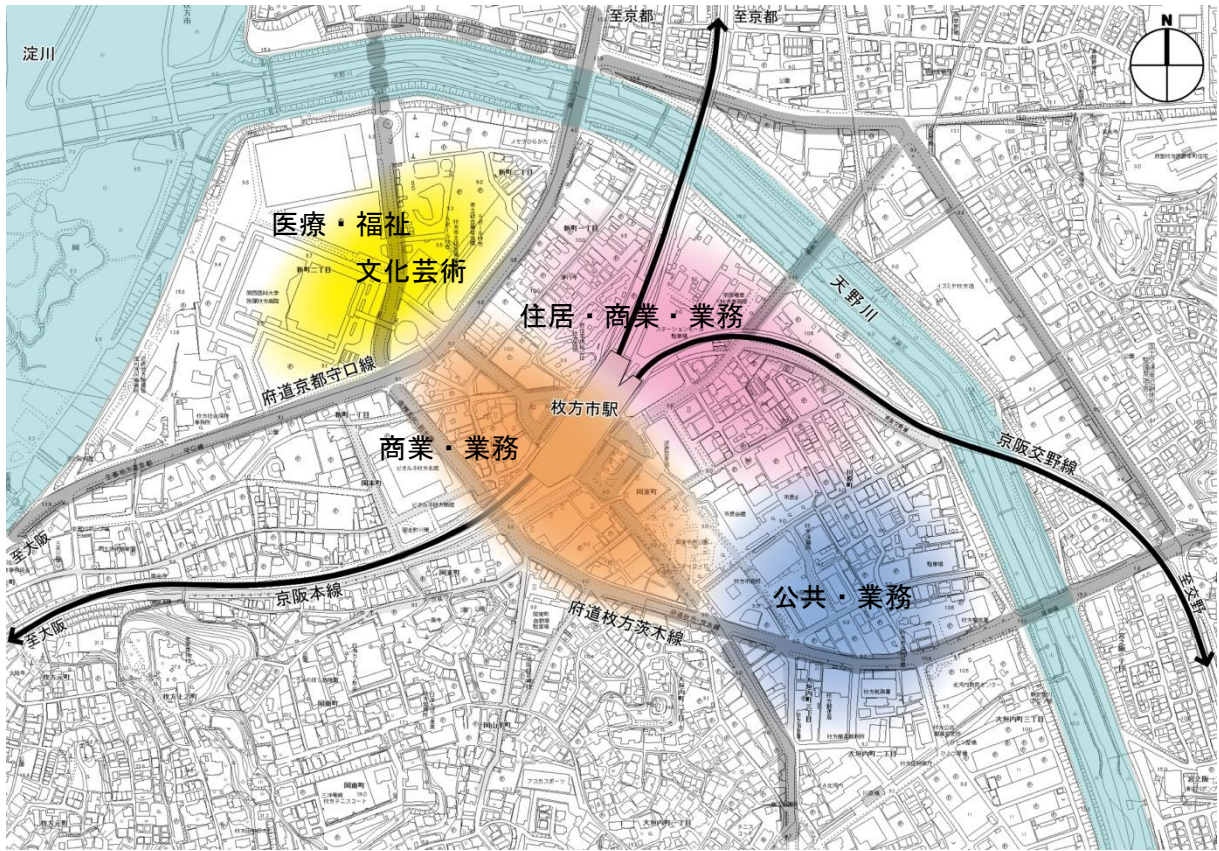
4) 生活サポート拠点の形成

広域的な行政サービスの提供や市民生活のサポートを行う拠点として、民間活力の導入による居住、商業、業務機能等の複合的な土地利用を視野に入れ、市役所をはじめとする行政機能を高めることで市民生活の利便性を図ります。

また、現市民会館跡地の土地利用を図るとともに市役所庁舎の建替えの際には、現市役所用地も有効活用することにより、市民生活の利便性の向上と周辺の公園、道路と一体となった新しい賑わい空間を創出し、まち全体のリニューアルを促進します。

(2) ゾーニングの設定

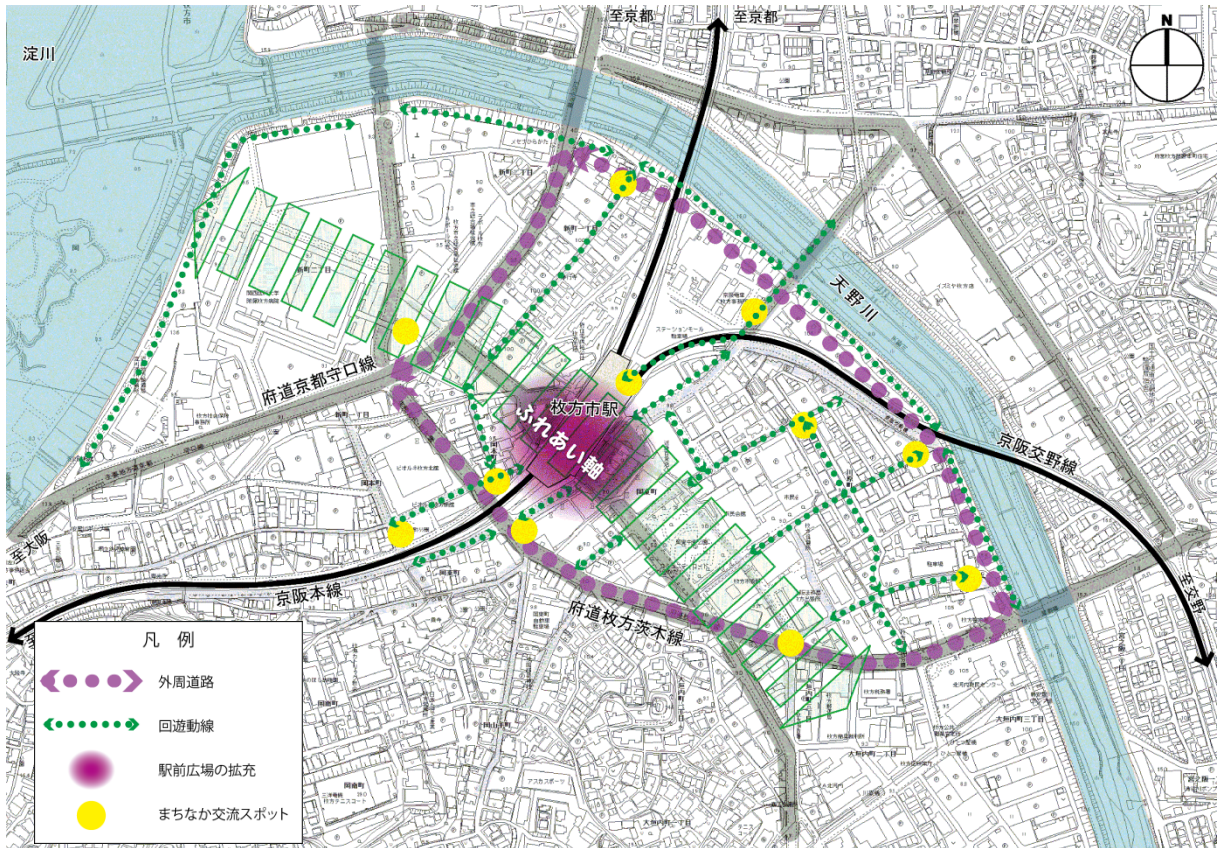
拠点形成と連鎖的なまちづくりの実現に向け、設定したゾーニングを示します。



(3) 交通環境の改善

まちの活性化や賑わいの創出には、まちへのアクセスや地域内での移動を円滑にする必要があります。その実現には、交通環境の改善を図り、人が活動でき、人で賑わうまちをめざします。

交通環境改善のイメージ



1) 駅前広場の整備

駅前広場の拡充や環境空間の確保等、交通結節点機能の充実を図ります。

また、南北の駅前広場機能の分離等利用形態を検討し、通過車両や駅周辺地域への車両の進入を抑制するなど利用者の利便性の向上と交通動線の円滑化を図ります。

2) 歩行者・自転車動線の整備

枚方市駅周辺地域への車両の進入を抑制し、誰もがスムーズに移動ができ、安心してまちなかを行き来できるよう、歩行者空間の整備を図ります。

また、自転車については、歩行者動線や駐輪場と整合した動線を検討するなど、安全・安心な交通環境の形成に向けた取り組みを進めます。

3) 外周道路の整備

外周道路を天野川の左岸沿いに新規に設定し、外周道路沿いの駐車場を有効活用することで、枚方市駅周辺地域への車両の進入を抑制します。

4) アクセス道路の整備

府道京都守口線や他のアクセス道路の渋滞が、路線バス発着の遅延や地域へのアクセス障害となっていることから、ビジョン対象区域外もあわせて交通体系の検証を行うとともに、課題解決のため国や大阪府等、関係機関に対し広域道路網の整備について改善に向けた取り組みを働きかけます。

5) 情報発信の強化による交通円滑化

まちを訪れる人が目的の施設やその場所、そこにたどり着くまでの最適な経路や交通手段は何を使えばよいかなど、わかりやすさや利便性向上のため、バス運行情報システムの導入や情報案内等による情報発信の強化を図ります。

(4) 快適な空間の創出と環境負荷の軽減

快適な空間を創出することで、まちに集う人の心にゆとりが芽生えるとともに、品格を備えた本市の中心市街地に相応しい景観に配慮した緑豊かなまちへと導きます。また、未来を見据えた低炭素まちづくりを推進していくため、ヒートアイランド[※]対策やエネルギー利用の効率化による環境側面からの取り組みを進めます。

1) 広場等のオープンスペースの整備

市役所周辺から枚方市駅を通り関西医科大学附属枚方病院や淀川に至る南北軸を快適で安全な歩行者の『ふれあい軸』として、形成します。

また、まちなか交流スポットを点在させることにより、歩行者の回遊動線を形成します。

2) 緑の空間の整備

駅前広場の拡充においては景観形成とあわせた緑化の促進を行うことでゆとりある空間を創出します。また、『枚方市緑の基本計画[※]』を踏まえ、まちのリニューアルにあわせ既存の緑空間の拡充と地域の緑化の促進を図り、緑豊かな安らぎの空間を整備します。

このような取り組みから、まち全体のうらおい空間としての緑の環境空間が整い、まちなかの景観や環境の質の向上とヒートアイランド対策等の環境負荷軽減が図られることが期待できます。

3) エネルギー利用の効率化

まちのリニューアルにあわせ、太陽光発電などの再生可能エネルギー[※]の導入や、下水処理水の温度差を利用する未利用エネルギー[※]の活用を促進します。また、昼夜間エネルギーの需要格差の平準化等、エネルギー利用の効率化を図ることによって二酸化炭素排出量を削減し、環境負荷の軽減に努めます。

(5) 安全・安心への導き

『枚方市地域防災計画※』を基本に、広域的な拠点としての枚方市駅周辺地域に即した取り組みを推進し、安全・安心のまちづくりへと導きます。

1) 防災

広域的な拠点としての機能を災害時においても最大限発揮できるように、まちのリニューアルにあわせ、建物の配置や防災空間の確保等、災害に強いまちを形成するとともに、住民や事業者等が自ら災害対応を行う、自助を啓発します。

外周道路については、地域緊急交通路府道枚方茨木線と連携し、災害時における避難路及び緊急車両通行路の複線化にも寄与します。

また、市役所庁舎の建替えの際には、災害対策本部としての機能の向上を図ります。

近年の都市型水害では、計画雨量を上回る集中豪雨による浸水被害が発生し、雨水整備だけでは対応しきれない状況となっています。今後は、浸水被害の軽減に向け、自助・共助・公助の観点から、それぞれが連携した取り組みを推進します。



防災訓練

2) 防犯

地域住民や来街者が日常利用する空間における防犯対策が重要であることから、行政、防犯協議会、ボランティア組織、地域住民等が問題意識を共有し、防犯活動に参加できるシステムの構築を促進します。

また、まちなか交流拠点等への都市居住を促進し、夜間人口を増やすことで防犯レベルの向上をめざします。

(6) 地域資源や地域活動の活用

魅力ある地域資源を積極的に保全・活用し、枚方らしさを創出します。

また、地域が一体となった様々な活動が継続的かつ活発に行える環境を整備し、まちの賑わいを創出します。

1) 学生の交流の場づくり

枚方市では市内に立地する大学との連携協定※の締結や魅力ある事業の取り組みにおいて、この地域を利用する様々な大学の多くの学生が交流できるような場づくりをめざします。

2) イベント活動の場の整備

枚方市駅周辺地域では、「街バル※」や「街コン※」等の地域の商業店舗をめぐるイベントが、地元商業者が中心となって行われています。

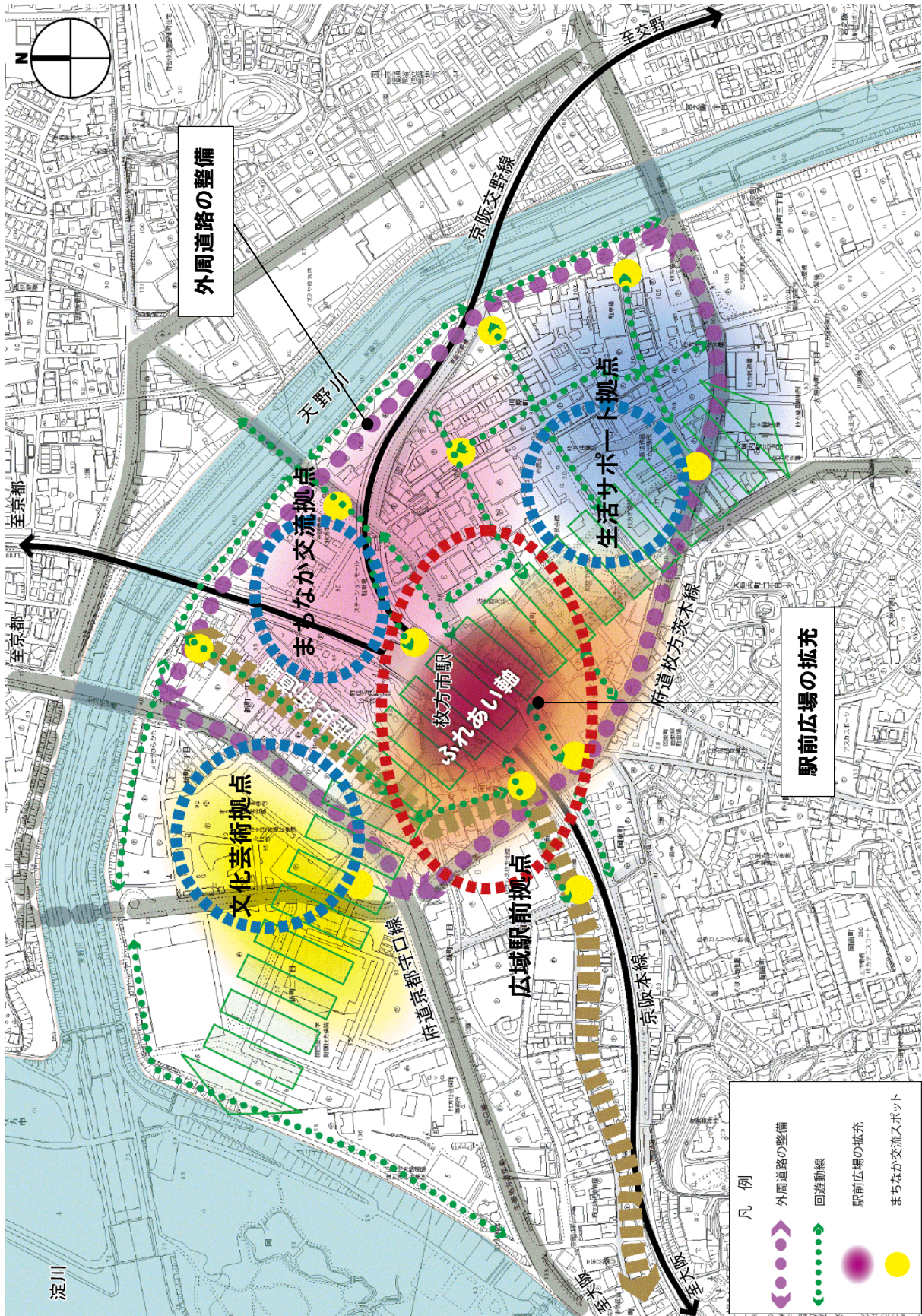
それらの活動を快適かつ安全に行えるよう、回遊空間を整備し、まちの賑わいや商業の活性化に寄与する活動をサポートします。

3) まちの情報発信の促進

イベントや地域活動から飲食、買い物等の身近な生活情報や百済寺、淀川等の地域資源に至るまで、様々な情報を発信し、まちの魅力を積極的にPRします。

それらの情報に、より多くの人があらゆる場所で接することができるよう、情報の発信や案内サービスを充実させ、まちと人、人と人をつなぐコミュニケーションの活性化を図ります。

(7) ビジョンのイメージ



(8) 主な取り組みスケジュール

